



20年前（1997年）、開館準備中のかわはく



ありがとう ぐるっと 20年！

# かわはく No.58

## CONTENTS

「ありがとう、ぐるっと20年」かわはく設立20周年がやってくる！ ……2

20周年記念事業関連 募集などのお知らせ ……3

平成28年度春期企画展案内「荒川水系の生きもの・サイエンスアート展」…4

平成28年度「荒川ゼミナール」開催報告 & 次年度予告 ……5

電子顕微鏡の世界（15）～電子顕微鏡操作研修会～ ……6

特集コラム：シリーズ両生類の話 第3回「トウキョウダルマガエル」 ……7

イベント実施報告 かわはく体験教室「河原の石図鑑をつくろう」 ……7



# ありがとう ぐねっと 20年!

埼玉県立川の博物館は平成9年8月1日の開館以来長年に渡り利用者の皆様にご愛顧され、お陰様で20周年を迎える記念の年を迎えることが出来ました。この記念すべき年に感謝の気持ちを込めて8月1日に20周年記念セレモニーを行います。

今年年間を通して記念事業を数多く行い利用者の皆様楽しんで頂き思い出に残る一年にしたいと思います。そして川の博物館は20年の歩みと共にこれから未来にかけて多くの情報を得られ

るだけでなく楽しく学べる博物館を目指していきます。

又、わくわくする様な記念事業を企画し、来館者体験型の「かわはくこども交流員」や御利用の多い障がい者に優しい博物館として、来館者の方に「かわはく障がい者体験」を行う他、中高年（高齢者）も含めたすべての世代が楽しめる博物館となれば幸いです。

（統括マネージャー 二川真一郎）

## ～20周年記念事業の紹介～

### <企画展>

- ・ 秋季企画展「かわはく・荒川20年」 開催期間：9月30日（土）～11月26日（日）  
20年前から現在のかわはくや荒川の変化などを紹介します。
- ・ スロープ展「カスリーン台風襲来70年目の展示～水害の記憶と未来への備え～（仮）」  
開催期間：9月6日（水）～2018年1月14日（日）  
防災について考える展示と、カスリーン台風襲来に関する展示を行います。関連イベントも実施します。

### <イベント>

- ・ 開館20周年イベント「カワシロウの張り子をつくろう！」  
開催期間：4月1日（土）～／みんなで大きなカワシロウの張り子づくりをします。
- ・ 開館20周年イベント「かわはくへのメッセージハガキ大募集」（右ページ参照）  
募集期間：4月1日（土）～通年／かわはくの思い出・感想などメッセージを募集します。
- ・ 開館20周年イベント「橋の名前募集」（右ページ参照）  
募集期間：4月1日（土）～6月下旬（予定）／かわはく敷地内にかかる2本の橋の名前を募集します。
- ・ 開館20周年イベント「かわはく20のクイズ」  
開催期間：4月1日（土）～通年／大人向け・子供向けがあります。全問正解者には粗品プレゼント！
- ・ 開館20周年イベント「かわはくこども交流員」（右ページ参照）  
開催日：4/15、5/13、6/10、7/8、8/5、9/9（土）他／交流員のお仕事体験（対象：4歳～12歳）。
- ・ 開館20周年感謝デー 開催日：8月1日（火）セレモニー 12:00～
- ・ かわはくであそぼう・まなぼう「かわはく開館 水の記念日 ～利き水体験～」  
開催日：8月1日（火）①10:00～12:00 ②13:00～15:00／利き水をしながら、水の性質や大切さを学びます。
- ・ 開館20周年イベント「館長と行く～『かわはく』ご長寿ぐるっとツアー」  
11月以降の土日いずれか 中高年対象に館長の展示解説と博物館裏話をします。



かわはく20年前（左・1997年）と現在（右・2016年）。



# かわはく設立20周年がやってくる！

## 「20周年記念事業関連 募集などのお知らせ」

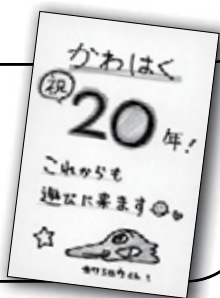
### ①体験イベント かわはくこども交流員

かわはくで交流員になって、お仕事体験しよう！  
低学年向きカジカチームと、中・高学年向きイワナチームに分かれて活動します。放送を入れたり、接客したり、ドキドキワクワクの楽しいお仕事体験です！かわはく好きな子あつまれ～！

開催日(前期)：4/15、5/13、6/10、7/8、8/5、9/9(土) 対象：4歳～12歳(小学生まで)  
参加費：300円  
時間：9：15～12：30 場所：ふれあいホール他  
定員：各チーム5名(要事前予約) ☆各開催日一ヶ月前より受け付けます。

### ②かわはくへのメッセージハガキ大募集

かわはくが開館して20年。多くの方がかわはくに来館くださいました。たくさんの思い出・感想、ハガキにしたために教えてください。館内に設置してあるハガキまたは官製はがきで、メッセージを募集します。いただいたメッセージは夏休みに展示する予定です。今までのそしてこれからのかわはくを、皆さんと一緒に思い描きます。  
(広報担当 若目田 葉子) 【ハガキイメージ】



### ③かわはく敷地内にかかる橋の名前大募集!



かわはく開館20周年を記念して、当館の敷地内にかかる2本の橋に、名前を付けます。橋の名前は来館者の皆様から募集し、応募していただいた中から2本の橋に名前をつけたいと考えています。

河川に架橋される橋の大半には、通常名前がついています。例えば、当館周辺の荒川に架橋された橋には、上流から「正喜橋」、「玉淀大橋」、「花園橋」とそれぞれに名前があります。

しかし、川をテーマとした博物館であるはずの当館の敷地内の橋には、残念ながらこれまで名前がありませんでした。そのため、20年の節目に晴れて名もなき橋に名前をつける運びとなりました。

皆さん、当館の敷地内の橋の名付け親になってみませんか？ステキな橋の名前お待ちしております。応募はメール：kawahaku1997.2017@gmail.com もしくは、館内の応募箱へお願いします！  
(橋の名前、住所、氏名、電話番号を明記してください) (研究交流部 羽田武朗)

### ④皆さんの“20年前情報”を教えてください

荒川・かわはくの20年を語っていただきます

かわはくは開館20周年を迎えますが、今秋に企画展、「かわはく 荒川 20年」を開催します。展示企画として、20年をふりかえり、開館当時の荒川の様子、流域のできごとやエピソードなどの聞き取り調査を実施します。荒川やかわはくにもつわる20年前の思い出、20年間の変遷、印象に残った出来事や事件など、ぜひこの機会に思い出していただければと考えております。

聞き取り調査はかわはくGWまつりをスタートに、7月中旬ぐらいまで実施いたします。学芸員がお声をかけさせていただき、10分程度お時間をいただきます。聞き取り調査にご協力いただいた方には粗品を謹呈いたします。20年前や20年間、これをキーワードにご協力をお願いいたします。(研究交流部 藤田宏之)





平成28年度春期企画展案内

2017年2月18日(土)～5月7日(日)

# 「荒川水系の生きもの・サイエンスアート展」

今にも動き出しそうな生きものたちのリアルな絵。これらは写真とは異なる生きものの魅力を私たちに伝えてくれます。サイエンスアートは生きものを精確にとらえるという科学的視点と、感動を生み出す芸術が融合したものです。細密でありながらいきいきとした絵は、フィールド調査を重ね、生きものを丁寧によく観察するところから生まれます。

本展示では荒川水系で見られる哺乳動物・鳥・魚・昆虫・植物などを、8名の作家による絵画と

立体作品で紹介しています。いずれの作家も、生き物をとことん観察し、それらを細密に表現しつつ芸術として高めた作品を通して生きものやその生息環境へ関心を向けて欲しいという思いを持っています。作品は荒川水系に見られる身近な生きものを主題としていますが、中には絶滅したと考えられる生きものや、この辺りでは見られなくなった生きものも展示しています。作品から色々なことを想像し、生きものたちへの興味を強くしていただきたい、そんな展示となっています。

## 《作家／作品紹介》

**立石鐵臣(故人)** 日本統治時代の台湾で活躍した油彩画家です。日本へ帰国後、日本の昆虫細密画の最高峰とも称され、戦後の子供向けの昆虫図鑑や児童書などの挿絵を数多く描きました。/オニヤンマ、オサムシなどの昆虫図鑑原画

**大見千代子** 第25回植物画コンクール文部科学大臣賞を受賞し、その後も活動を続けるボタニカルアーティストです。/キリなど植物画原画

**佐藤忠雄** 木彩画と呼ばれる木の木目を生かした細密画の作品で知られる画家です。/ヤマメなどの魚や鳥の原画及びジクレー

**斉藤卓治** 紙を使って繊細な触覚、足の先までリアルに昆虫の姿を再現するペーパークラフト作家です。/昆虫の世界のオリジナル立体作品

**小池正孝** 使用済みの割り箸というユニークな素材を使ってリアルで今にも動き出しそうな作品づくりの芸術家です。/イワナ、コイ、ナマズなど川の生きもののオリジナル立体作品

**狼林** 水族館や動物園の博物標本画ほか、絵本の挿絵や日本画など幅広く活躍する画家です。/カワセミやメジロなど、鳥を中心にした原画及びジクレー

**きむらけい** 厳しい大自然の中で生きるアラスカの野生動物達の絵画を制作する画家です。/荒川水系では絶滅したと考えられるオオカミをテーマとした原画(想像図を含む)

**田中豊美** 著書に「日本の野生動物」(全三巻・新日本出版社)など多数ある動物生態画家です。/ニホンテン、カモシカなどの哺乳類原画  
(研究交流部 森 圭子)



立石氏の作品より



きむら氏(左)と狼林氏(右)の作品より



左から小池・斉藤・佐藤・大見氏の作品より



田中氏の作品より



平成28年度

# 「荒川ゼミナール」

# 開催報告&次年度予告

今年度、平成28年度も、「主に」ウォーキングをしながら、現地で実際の景色を見て河川について学習する「荒川ゼミナール」を開催いたしました。

今年度の荒川ゼミナールは、当館のミニ展示等で、荒川流域に整備された様々な堤防を紹介する展示を開催した関係もあり、特に荒川流域の堤防にまつわるテーマを中心にイベント全体を構成してみました。

今号では、今年度実施した荒川ゼミナールの内容をダイジェスト版で紹介してみたいと思います(誌面の都合上今年度実施した一部イベントのみの紹介となります)。

4月下旬、今年度1回目の荒川ゼミナールでは、高麗川流域を歩きました。この回の目玉は、河岸段丘や扇状地、谷底平野等の地形の違いや、越辺川や高麗川流域で見学することのできる「霞堤」と呼ばれる旧堤と、現在整備されている堤防との規模の違いや、堤防の性質の違いを学んでいただく点にありました。

季節は進んで秋。11月上旬に再開した荒川ゼミナールでは、荒川と入間川との間に築堤された「背割堤」の見学を中心に歩きました。この回の目玉は、何といても背割堤。全長約4kmにわたって築堤された背割堤、そのほぼ全てを踏破し、あわせて背割堤周辺に築堤された「横堤」の見学や、自然堤防と後背湿地等、地形の違いによる土地利用の違いについて参加者の方に学んでいただきました(写真①)。

長い冬が終わり、暖くなった3月。荒川ゼミナールも三度再開し、上旬と下旬に1回ずつ、荒川中流域と下流域にそれぞれ出かけました。

3月上旬に出掛けたのは、荒川の中流域。ウォーキングのテーマは、「荒川の堤防がどこから始まるのか?」という点。この回の目玉も文字通り荒川の堤防のはじまりを参加者の方に見てもらうこと。荒川の堤防が、荒川扇状地と新荒川扇状地とのちょうど境目周辺から、河岸段丘によって生じる高低差を埋める形で始まっていることを実際に見てもらいました。またあわせて、熊谷駅南口周辺に残る荒川の昔の堤防の名残を見学してもらいました(写真②)。

3月の下旬に出掛けたのは、荒川の下流域。ウォーキングのテーマは、「現在荒川の堤外地になっている場所は本来どんな場所であったのか?」という点。参加者の皆様には荒川の堤外地の中も

歩いてもらい、昔は集落もあり別の河川(荒川の支流の1つ鴨川)が流れていたことや、荒川第一調節池が整備された場所の多くは、昭和のはじめまでは荒川の流路であったこと、そして荒川第一調節池周辺で見られる様々な堤防について見学していただきました。

今年度は主に「堤防」を中心に参加者の方に学んでいただきましたが、来年度はまた少しテーマを変えてイベントの企画を立ててみようと考えています。

それでは今号の最後に、来年度の予告を少し。来年度、平成29年度は、当館が開館して20年の節目の年となります。また、平成29年(2017年)は、戦後間もない、昭和22年(1947年)の日本列島に甚大な被害をもたらしたカスリーン台風が襲来してから70年の節目の年にあたります。

この節目となる年、荒川ゼミナールでは、当館と切っても切れない関係にある「荒川の歴史」とゆかりのある場所へ、そして「カスリーン台風による被害」が生じた場所へ出かけて行く予定です。

これから河川のことを学びたい方も、今河川のことを学んでいる方も、ぜひ当館の荒川ゼミナールにご参加ください。皆さんの参加をお待ちしております。(研究交流部 羽田武朗)



(写真①) 今年度の実施風景Ⅰ (横堤の見学の様子)



(写真②) 今年度の実施風景Ⅱ (荒川右岸堤防がはじまる場所での解説の様子)





# 電子顕微鏡の世界 (15) ～電子顕微鏡操作研修会～

埼玉県立川の博物館では、走査型電子顕微鏡（日本電子製JSM-5310LV（略称SEM））を所有しています。当館ではSEMを積極的に活用していただくことを目的に、県内、小・中・高等学校の先生方を対象にした、電子顕微鏡操作研修会を毎年開催しております。今年度は、30名を超える応募があり、その中から抽選で、11名の先生方に電子顕微鏡の操作を体験してもらうことができました。

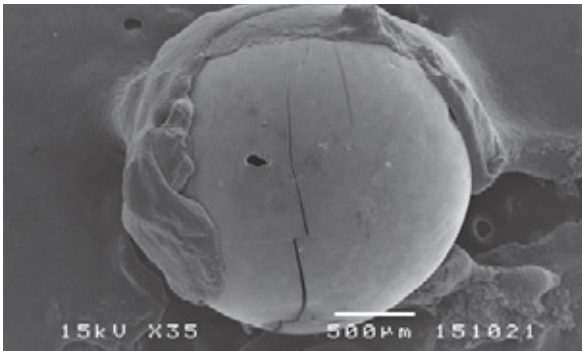
午前中に電子顕微鏡の仕組みと基本操作について学び、午後は各自ご用意された試料を観察してもらうことができました。先生方はとても熱心で、電子顕微鏡を利用したすばらしい写真が撮影され

ました。研修会の際に撮影された写真の一部を掲載します。

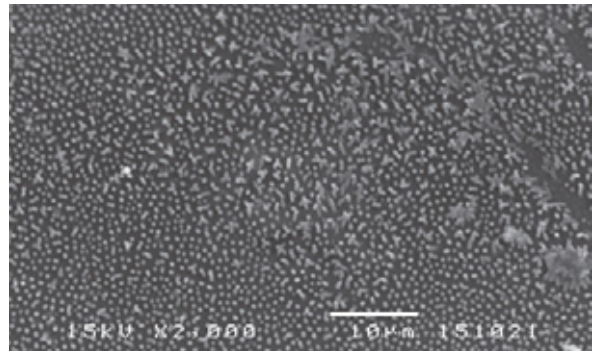
平成29年度も研修会の実施を予定しております。SEMを利用することで、普段見ているもの、見ることのできないミクロの世界をのぞくことができます。電子顕微鏡で撮影した写真は、教材として活用することもできます。また、川の博物館のホームページにも、当館で撮影された電子顕微鏡写真を資料として掲載しています。興味のある方は担当までお問い合わせください。

残念ながら抽選にもれてしまった方々は、来年度も実施の予定がありますので、再応募をお願いします。

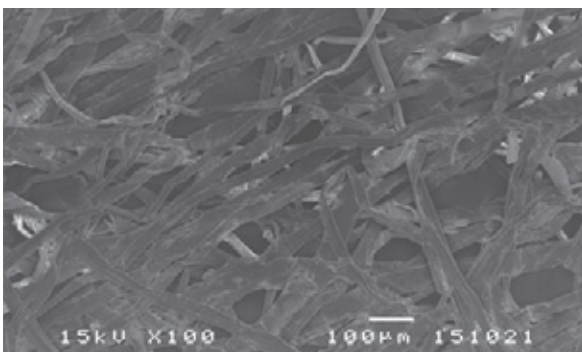
（研究交流部 石井克彦）



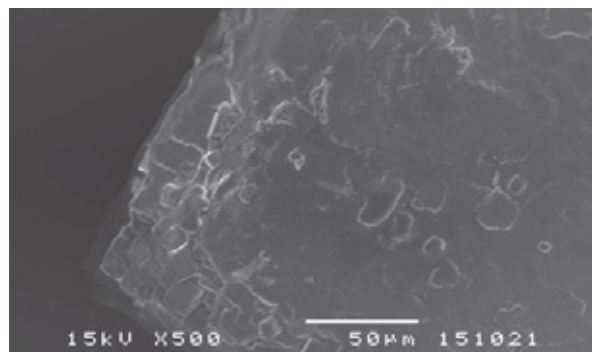
「シリカゲル 35倍」埼玉県立朝霞高等学校 宮田慶子



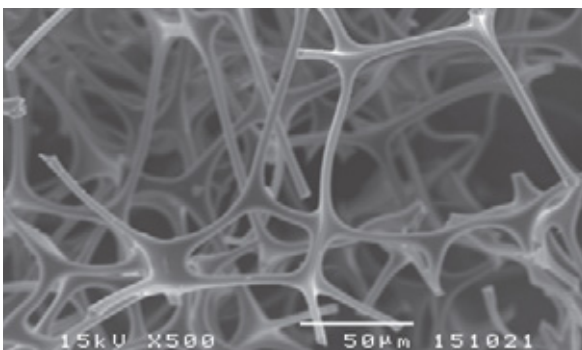
「オニヤンマの翅 2000倍」東松山市立北中学校 笹川真理



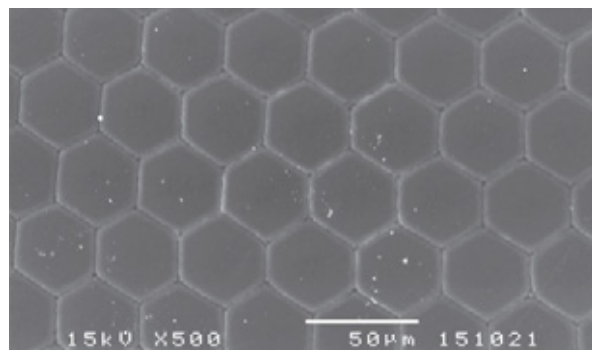
「ティッシュペーパー 100倍」上尾市立原市中学校 大塚卓



「食塩 500倍」埼玉県立大宮商業高等学校 福田みどり



「メランスポンジ 500倍」美里町立美里中学校 本庄秀行



「スズメバチの複眼 500倍」埼玉県立妻沼高等学校 篠塚優峰



◆ 特集コラム ◆  
シリーズ両生類の話

第3回

「トウキョウダルマガエル」

このシリーズ第3回はトウキョウダルマガエルを紹介します。

生活史を田んぼに依存し、埼玉県では田んぼが広がる東部の平野部や、都市部に近い川越市や比企地方の平地でも多くみられます。

田んぼでは最もよくみられるニホンアマガエルより倍以上の大きな身体、高いジャンプ力、大きなエサも丸のみするなど、田んぼのヌシといえるでしょう。繁殖期のオスは田んぼの中に縄張りを張り、左右の青い鳴き袋をふくらましてウゲゲゲと鳴きます。

近年都市化や大規模な開発により田んぼの減少が進み、さらに田んぼの周りの水路がコンクリート化されるなどの近代化で、減少の一途をたどっています。田んぼは本来コメをつくための人為的な湿地ですが、トウキョウダルマガエルだけでなく、ドジョウやフナなどの魚や水生昆虫など様々な生

きものがはぐくむ貴重な水辺といえます。その田んぼが近代化の進行によって生きものが棲みにくくなっています。時代の流れといえばそうですが、ヒトと生きものの共生の場であった田んぼがそうでなくなりつつあるのは残念なことと感じます。



トウキョウダルマガエル (日高市)

(研究交流部 藤田宏之)

イベント実施報告

かわはく体験教室

「河原の石図鑑をつくろう」

平成29年2月18日(土)、かわはく体験教室「河原の石図鑑をつくろう」を行いました。河原の石を観察するためには寒い季節ですが、ちょうど足元の草が枯れていて、石を観察しやすい時期でもあります。当日、博物館近くのかわせみ河原は、昨年の台風で上流から運ばれてきた石がごろごろとあって、絶好の石拾い日和でした。講座は事前申し込み制でしたが、定員20名以上のお申し込みがあり、満員御礼での開催となりました。

内容は、はじめに講座室で石の種類についてお話しました。次に、図鑑つくりの材料・荒川の石を採集するため、川の博物館の近くにあるかわせみ河原へ行きました。河原に到着後、すぐに石採集を開始しました。採集時間中の参加者の様子は、見つけた石がどのような石なのか、なんという名前なのか等、スタッフに確認しながら持ち帰り用の袋に入れていました。どの参加者の方も、河原を出るまで、夢中で石採集に取り組んでいらっしゃいました。

河原から講座室へもどり、石図鑑つくりを行いました。石図鑑は、①石を水道でよく洗い、布で石の水気をふき取る②乾いた石を木板の上に接着剤で貼り付ける③石の名前をつける、といった方法で行いました。石の名前がわからない時は、積

極的にスタッフへ質問をして確認。最後に思い思いの荒川の石図鑑を完成させて、お持ち帰りいただきました。

川の博物館では、今後も様々なイベントを企画しています。ぜひご応募ください。



石図鑑を作成している様子

(研究交流部 高橋美織)



### 4月

2/18/土~5/7/日

平成28年度春企画展  
「荒川水系の生きもの・サイエンスアート展」

2/7/火~6/18/日

スロープ展「自転車であそぶ荒川」

2/28/火~4/16/日

ミニパネル展「石っこ賢さん、宮沢賢治と寄居町」

2/日

かわはくであそぼう・まなぼう「桜の押し花づくり」

場所：リバーホール  
時間：13：30～15：30（随時参加OK）  
費用：無料  
定員：なし  
内容：桜の押し花でカードやしおりをつくります。

16/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～「オタマジャクシを観察しよう」

場所：荒川情報局  
時間：13：30～15：30  
費用：無料  
定員：随時2組ほど  
内容：早春に産卵するカエルのオタマジャクシをじっくり観察してみましょう。

22/土

かわはく体験教室「ペーパークラフトで虫をつくろう」

場所：講座室  
時間：①9：30～11：30 ②13：30～15：30  
費用：500円（材料費）  
定員：各回20名（申込順）☎  
内容：講師に紙技工の齊藤卓治氏を迎え、紙を使ってテントウムシをつくります。

23/日

荒川ゼミナール川を知るウォーキング  
「志本市内の旧堤・水塚・樋門をめぐるウォーキング」

時間：9：00～16：00（予定）  
集合：東武東上線志本市駅東口  
費用：100円（保険料）、別途交通費必要  
定員：20名 ☎  
内容：人々の治水・利水の知恵や治水対策の変遷がよくわかる、志本市内を歩きます。

### 6月

6/23/金~9/3/日

スロープ展「特別展サテライト展示・狼の昔話」

4/日

かわはくであそぼう・まなぼう  
環境の日記念「水質調べ」

場所：本館前  
時間：①10：30～12：00  
②13：30～15：00（随時参加OK）  
費用：無料  
定員：なし（材料がなくなり次第終了）  
内容：環境の日にちなみ、検査キットで水質調査の体験をします。

11/日

かわはく体験教室「竹の水鉄砲づくり」

場所：講座室  
時間：13：30～15：30  
費用：200円（材料費）  
定員：25名（申込順）☎  
内容：竹を使った水鉄砲をつくり、的当てを楽しみます。

18/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～  
「電子顕微鏡で観察しよう」

場所：荒川情報局  
時間：13：30～15：30  
費用：無料  
定員：随時2組ほど  
内容：卓上顕微鏡 Miniscope® を用いて色々なものを観察します。（協力：日立ハイテクノロジーズ）

### 5月

5/27/土~6/18/日

5月企画展「東京藝術大学学生による  
“調べる”荒川・隅田川水系” 作品展」

3/水・祝~7/日

かわはくGWまつり  
時間：10：00～16：00

5/金・祝

かわはくであそぼう・まなぼう  
地質の日記念「ストーンペインティング」

場所：ファミリー広場  
時間：13：30～15：30（随時参加OK）  
費用：無料 定員：なし  
内容：荒川の小石に絵を描いて遊びます。

14/日

荒川ゼミナール川を知るウォーキング「びん沼を歩く2」

時間：9：30～16：00（予定）  
集合：JR南古谷駅  
費用：100円（保険料）、別途交通費必要  
定員：20名 ☎  
内容：荒川の流路変更がよくわかる、びん沼周辺を歩いて、地形や治水の歴史について学びます。

20/土

流水のはたらきと、川の水質の観察

場所：都幾川周辺  
時間：13：30～15：30  
費用：100円（保険料）  
定員：各回20名（申込順）☎  
内容：川の水質のさがしと、流れる水のはたらきを学びます。

21/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～  
「川のはたらき・地形・歴史を学ぼう！」

場所：かわはく周辺  
時間：①10：00～11：00 ②11：00～12：00  
③13：30～14：30 ④14：30～15：30  
費用：無料 定員：各回10名ほど（当日9時より予約受付）  
内容：学芸員と一緒にかわはくの周辺の地形や川のはたらき、荒川の歴史等について学びます。参加者の方に当日自分が学びたいテーマを1つ～2つ選んでいただきます。

### 7月

7/15/土~9/3/日

平成29年度特別展「神になったオオカミ  
～秩父山地のオオカミとお犬様信仰～」

2/日

かわはくであそぼう・まなぼう  
川の日記念「七夕かざりづくり」

場所：ファミリー広場  
時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00（随時参加OK）  
費用：無料 定員：なし  
内容：川の日を記念して七夕かざりをつくり、荒川大模型173に飾ります。

16/日

かわはく研究室～川・自然・歴史～「土と砂って何ががうの？」

場所：荒川情報局  
時間：13：30～15：30  
費用：無料 定員：随時2組ほど  
内容：土と砂のちがいを、簡単な実験を通して学びます。

22/土

かわはく体験教室「昆虫標本作り」

場所：講座室  
時間：13：30～15：30  
費用：200円（材料費） 定員：20名（申込順）☎  
内容：昆虫標本の作り方や、なぜ標本を作るのかについて体験しながら学びます。

29/土

ウッドクラフト「オオカミをつくろう」

場所：講座室  
時間：13：00～16：00  
費用：有料（料金未定） 定員：20名（高校生以上）  
内容：木彫の原型にヤスリがけと塗装を行い、オオカミの置物をつくります。

30/日

かわはく夏まつり  
時間10：00～16：00

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の前日（午前中）までです。③定員になり次第締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

■編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地  
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332  
Eメール/web-master@river-museum.jp/

彩の国  
埼玉県

2017年3月31日発行

